

事業コード	06070101	政策コード	06	政策名	ふるさとの未来を拓く人づくり戦略
事業名	県民読書環境整備事業	施策コード	07	施策名	地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供
		指標コード	01	施策目標(指標)名	多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進
部局名	企画振興部	課室名	総合政策課	班名	県民読書推進班
				(tel)	1216
				担当課長名	橋本秀樹
				担当者名	佐々木世津子

<b>評 価 対 象 事 業 の 内 容</b>		事業年度	平成23年度 ~ 令和07年度
<p><b>1-1. 事業実施当初の背景 (施策目標達成のためになぜこの事業が必要であったのか)</b>                  読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築に寄与するものであることにかんがみ、すべての県民が読書活動を容易に行うことができるよう、そのための環境の整備が積極的に推進される必要がある。こうしたことから、平成22年4月に「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」が施行され、県は、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画と総合的な施策を策定し、実施するとされている。</p>	<p><b>3. 事業目的 (どういった状態にしたいのか)</b>                  県民が読書活動を容易に行うことができるよう、読書環境の整備を推進することにより、県民が人生を豊かにするとともに、文化的で豊かな社会を構築する。</p> <p>(重点施策推進方針との関係)    ● 重点事業    ○ その他事業</p>		
<p><b>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の課題</b>                  読書は個人的で自由な精神活動であるため、県民の読書活動を進めていくためには、家族と一緒に読書を楽しんだり、進んで読書に親しむ機運を醸成していくことが必要であるが、「本や雑誌、新聞等を一日30分以上読む県民の割合」は、平成28年度以降5割を割り込み、特に子育てや働き盛りの年代の読書時間が少ない傾向にある。</p>	<p><b>4. 目的達成のための方法</b></p> <p>①事業の実施主体    県</p> <p>②事業の対象者・団体    県民、民間団体等</p> <p>③達成のための手段</p> <p>家庭における乳幼児への読書の習慣付けや、県民の身近な施設で読書に親しむことができる環境づくりを図る。また、本を読まない人にも読書に興味をもってもらうため、訴求力のある著名人が読書の魅力について語る動画を制作・配信する。さらに、秋田を舞台とした文学作品の募集や、県民の読書活動への関心を高めるためのイベントを実施する。</p>		
<p><b>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</b></p> <p>①ニーズを把握した対象    □ 受益者    ■ 一般県民 (時期: R02 年 08 月)</p> <p>②ニーズの変化の状況    ● a 増大した ○ b 変わらない ○ c 減少した</p> <p>③ニーズの把握の方法</p> <p>■ アンケート調査    □ 各種委員会及び審議会    □ ヒアリング    □ インターネット</p> <p>□ その他の手法 (具体的に 県民意識調査 )</p> <p>④ニーズの具体的内容及び変化の状況の内容</p> <p>「1日平均30分以上読書をする人の割合」は、前年度比0.4%増の44.2%に止まっており目標値である「70%以上」を達成するためには、一層の読書環境整備が必要である。</p>	<p><b>5. 昨年度の評価結果等</b>    ● 継続    ○ 改善    ○ 見直または休廃止</p> <p>①評価の内容</p> <p>(一次評価結果) 「1日平均30分以上読書をする人の割合」は、前年度比0.3%減の43.8%であり、特に若年層では低水準に止まっている。こうした状況を踏まえ、より積極的にSNS等で読書の魅力を発信していくほか、県民が身近な所で読書を楽しむことができる環境づくりを推進していく。</p> <p>②評価に対する対応</p> <p>若者を中心とした県民の読書意欲を喚起するため、県民の注目度が高い県内の著名人による読書啓発の動画を制作し、動画配信サイトYouTubeで配信した。</p>		

<b>6. 事業の全体計画及び財源</b>										単位(千円)
順位	事業内訳	左 の 説 明	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	全体(最終)計画	
01	地域読書活動推進事業	リサイクル文庫事業や「家族で読書」運動の啓発を進めるとともに、市町村との協働により地域読書の推進を図る。	3,717	2,322	2,235	2,235	2,235	2,235		
02	県民読書の日啓発事業	「ふるさと秋田文学賞」の作品募集や受賞作品集の刊行、読書のつどいの開催を通して「県民読書の日」の周知を図る。	2,981	1,975	1,822	1,822	1,822	1,822		
05	(新) 第3次読書活動推進基本計画策定事業	第2次読書活動推進基本計画の計画期間が令和2年度で終了することから、第3次読書活動推進基本計画を策定する。		17						
<b>財源内訳</b>			<b>左 の 説 明</b>							
	国庫補助金		6,699	4,314	4,057	4,057	4,057	4,057		
	県債									
	その他		104	5	5	5	5	5		
	一般財源		6,594	4,309	4,052	4,052	4,052	4,052		

7. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
指標Ⅰ	指標名	本や雑誌、新聞等を1日平均30分以上読む人の割合						指標の種類	
	指標式	1日平均30分以上読書をする人÷調査人数×100(%)						●成果指標 ○業績指標	
	①年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 ○該当 ●非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	70	70	70	70	70	70	70	
	実績b	43.8	44.2	0	0	0	0	0	
	b/a	62.6%	63.1%	0%	0%	0%	0%	0%	
	東北及び全国の状況 調査なし								
	②データ等の出典 県民意識調査								
	③把握する時期 ●当該年度中 08月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月								
指標Ⅱ	指標名	「県民読書の日」を知っていると答える人の割合						指標の種類	
	指標式	「県民読書の日」を知っている団体÷調査数×100(%)						●成果指標 ○業績指標	
	①年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 ○該当 ●非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	50	50	90	90	90	90	90	
	実績b	84.8	0	0	0	0	0	0	
	b/a	169.6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
	東北及び全国の状況 調査なし								
	②データ等の出典 「読書のつどい」来場者アンケート(R2はつどい中止により数値なし)								
	③把握する時期 ●当該年度中 11月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月								

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

1次評価		評価結果
必要性の観点	課題に照らした妥当性 ● a ○ b ○ c	● A ○ B ○ C
	理由 第2次秋田県読書活動推進基本計画に基づき、課題の解決に向けて計画的かつ着実に推進している。	
	住民ニーズに照らした妥当性 ● a ○ b ○ c	
	理由 読書をしない理由として、仕事や育児等による多忙などがあげられていることから、身近な施設で本を手にとれる環境づくりを推進する必要がある。	
	県関与の妥当性(民間、市町村、国との役割分担) ● a ○ b ○ c	
理由 「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」により、県は県民の読書活動の推進に関する総合的な施策を策定し、実施する義務がある。		

1次評価		評価結果
有効性の観点	事業の効果(事業目標は達成されているかどうか) 適用の可否 ●可 ○不可 ○a 達成率100%以上 ○b 達成率80%以上100%未満 ●c 達成率80%未満 【評価への適用不可又はcの場合の理由】 スマートフォンでのゲームや動画視聴等に時間を費やすことなどにより、読書離れが進んでいるのではないかと考えられる。	○A ○B ●C
	1 事業の経済性の妥当性(費用対効果の対前年度比) 適用の可否 ○可 ●不可 ○a 1.1~ ○b 0.9~1.1 ○c ~0.9 〔令和2年度の効果〕 / 〔令和01年度の効果〕 = (指標Ⅰ) 〔令和2年度の決算額〕 / 〔令和01年度の決算額〕 = (指標Ⅱ) 【評価への適用不可又はcの場合の理由】	○A ○B ●C
効率性の観点	2 コスト縮減のための取組状況 ○a 客観的で効果が高い ○b 取組んでいる ●c 取組んでいない 【コスト縮減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】 本事業でコスト削減効果は期待できない。	○A ○B ●C
	総合評価 ○A継続 ●B改善して継続 ○C見直し ○D休廃止 ○E終了	「1日平均30分以上読書をする人の割合」は、前年度比0.4%増であるが、実績値は44.2%であり、特に若年層では低水準に止まっている。こうした状況を踏まえ、より積極的にSNS等で読書の魅力を発信していくほか、県民が身近な所で読書を親しむことができる環境づくりを推進していく。
2次評価		
必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C		
総合評価	(2次評価対象外)	
○A継続 ○B改善して継続 ○C見直し ○D休廃止 ○E終了		
評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)		
政策評価委員会意見		